

5～6月
9～10月

春秋の昆虫に会いに行こう

小学校1～3年生活科・理科

File A - 1: 自然の中に生きる小さな生命に関心をもつプログラム >>> バッタの原っぱで昆虫とふれ合おう
(ねらい) 様々な昆虫とふれあうことを通して、自然の中に生きる生命に関心を持つことができる。

ぐんま昆虫の森「バッタの原っぱ」(所要時間10分)

昆虫のつかまえ方や観察の方法など活動の仕方を聞く。
【講話】昆虫のいる場所・つかまえ方・観察の仕方の紹介
【注意】注意する生き物(スズメバチ・ヘビ・マツモムシ)



グループごとにバッタの原っぱ周辺に出発

「バッタの原っぱ周辺」(所要時間50分)

バッタの原っぱ周辺で、グループで昆虫採集・昆虫観察をする。
3つの解説ポイントで解説員から解説を聞いたり、昆虫にふれたり、観察したりする。

解説ポイント1(畑・草地)



【講話】チョウの変態・食草について、バッタ類の見分け方について
【観察・体験】

モンシロチョウ、アゲハチョウ、キアゲハの卵・幼虫・蛹、
バッタ、コオロギ、キリギリス・カマキリなどを見つけて観察。

グループで昆虫採集・観察



解説ポイント2(水辺)



【講話】・トンボの生態について
・水生昆虫のからだのつくりについて
【観察・体験】トンボのなかま(ヤゴ)、ガムシ、
ミズカマキリ、タイコウチ、ヒキ
ガエルなどにふれ、観察

解説ポイント3(雑木林)



【講話】・カブト虫の生態について
・カブトムシの幼虫の体のつくり、
雌雄の見分け方について
【観察・体験】
カブトムシの幼虫を掘り出して観察。

指導体制：昆虫の森指導者4名、学校引率者数名 **対象人数**：学校団体対象300人(要予約)

準備：昆虫の森(グループごとに虫取り網・観察ケース)、学校(グループごとに腕時計)

留意点：引率者による事前の実地踏査およびスタッフとの打ち合わせを行う。
班の人数を4～5名程度にする。

プログラムの関連性：

小学校学習指導要領

生活科 内容(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、
四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

理科 3年内容 B

(1) 昆虫と植物

身近な昆虫や植物を探したり育てたりして，成長の過程や体のつくりを調べ，それらの成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができるようにする。

ア 昆虫の育ち方には一定の順序があり，成虫の体は頭，胸及び腹からできていること。

イ 植物の育ち方には一定の順序があり，その体は根，茎及び葉からできていること。

(2) 身近な自然の観察

身の回りの生物の様子を調べ，生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は，色，形，大きさなどの姿が違うこと。

イ 生物は，その周辺の環境とかかわって生きていること。